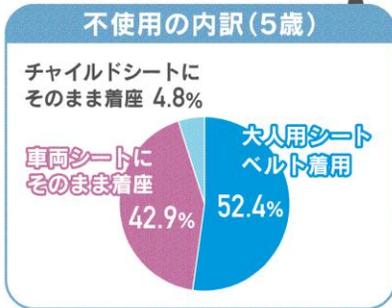




県内 チャイルドシート使用率

74.1% 全国平均下回る

県内のチャイルドシートの使用状況



※小数第2位を四捨五入。警察庁・JAF調べ

県内の6歳未満のチャイルドシート使用率は74.1%で、全国平均の78.2%を下回ったことが、警察庁と日本自動車連盟(JAF)の調査で分かった。1歳未満は全国より高かったものの、1～5歳の着用が少なかった。JAF大分支部(大分市)は「特に5歳の使用率が低い。子どもの命を守るため徹底してほしい」と呼びかけている。

調査は5～6月に全国各地で実施した。県内は5月18日、市内の商業施設2カ所で201人を対象に調べた。

年代別の使用率は▽1歳未満92.9%(全国平均91.7%)▽1～4歳75.9%(全国平均75.9%)▽5歳51.2%(全国平均51.9%)。年齢が上がるにつれて、使わなくなる傾向があった。

県内は5歳児の使用が特に低く、全国平均を6.7%下回った。同支部は「子

5歳頭著、加齢につれ低下

子どもの体が大きくなってくると『もう大人用でいいかな』と思う人が多いようだ。成長に応じて、使うチャイルドシートの種類が変わってくるが、買い替えが進んでいないのではないかと推測する。

不使用だった5歳児の内訳を見ると、チャイルドシートを使わずに大人用のシートベルトを着用していたケースが52.4%。シートベルトをせず車両シートにそのまま着座が42.9%だった。「チャイルドシート



体格に合わせたチャイルドシートの使用を呼びかけるJAF大分支部の職員＝大分市

自体を載せていない車もあつた」という。

福岡市では8月、路線バスと衝突した軽乗用車で、チャイルドシートを使用していなかった5歳と7歳の姉妹2人が死亡する事故が起きた。大人用のシートベルトをしていて、腹部を圧迫されたとみられる。

JAFは今年、チャイルドシートの推奨基準を従来の「140センチ未満」から「150センチ未満」に変更。年齢に関係なく、体格に応じて使用を勧めている。

同支部の岩元幹太さん(28)は「チャイルドシートを適正に使用していないと、子どもがけがをするなど、重大な事故につながるかねない。各家庭で一度チェックしてほしい」と話した。

(小林 滋)

道路交通法は6歳未満の子を乗車させる場合、チャイルドシートの使用を義務付けている。不使用で摘発されると、幼児用補助装置使用義務違反として反則点数1点が付加される。県警交通企画課によると、昨年までの過去5年間の県内の摘発は4690件。



〔問①〕 大分県内では特に、5歳児のチャイルドシート使用率が低いという結果が
出ました。使用率は何%で、全国平均に比べて何ポイント下回っていますか。

〔問②〕 道路交通法では何歳未満の子どもを乗車させる場合、チャイルドシートの
使用を義務付けていますか。

〔問③〕 チャイルドシートの使用率を上げるためにはどうしたらいいか、考えよう。